

第11回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

- 1 日時 平成31年2月7日(木) 10時00分～
- 2 場所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
- 3 出席者 委員11名のうち7名出席
- 4 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
- 5 会議経過 (1) 開会 10:00
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)
議事録署名確認(名簿順につき薄葉委員に依頼→了承)
資料確認(配布漏れなし)
(3) 報告
①事業進捗状況について
②ルーマニア渡航報告について
(4) 議題
①松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック
やさシティおもてなシティ推進第3次行動計画について
(5) 閉会 11:50

6 議事概要

○長江会長

皆さん、おはようございます。早い時間からお集まりいただき、本当にありがとうございます。

平成31年というのも、平成が終わりになる年ということで、新しい未来に向かってという方向性がオリンピック・パラリンピックとも一致しているかなというふうに思います。

本日の会議の円滑な運営につきましては、委員の皆様のご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、会議次第の2番目の議事でございます。まず、報告事項が2点ほどございまして、1番目の事業経過概要につきまして、事務局よりご説明、よろしく願いいたします。

(事務局から事業経過概要の報告)

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、ただいまの事務局からの説明に対しまして、皆様方よりご質問とかご意見を伺いたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、流通経済大の西機先生、いかがでしょう。派遣されるということも含めてお願いいたします。

○西機委員

派遣のことに関しては、皆さんのところにも連絡がいったかと思います。

年末に連絡があったと思いますが、実は私のゼミ生の軟式野球部2人に声をかけたら、チャレンジしてみたいということでしたので、結構バタバタで書類を送り、パスポートさえもつくったことがない2人なんですけど、初海外がドミニカ共和国ということで。ただ、実はまだ外務省のほうから具体的なスケジュールは全く連絡がなく、非常に不安がっていますけれども、先日打ち合わせをさせていただきまして、手前のオリエンテーションというか、ガイダンスみたいなものも独自で我々でやるようにしましょうということで、10名ぐらいが行くようなんですけど、ほかの参加者も全く想像がつかないので、また行ってきたら、それをうまく地域の、本学の学生にもそうですけど、皆さんに報告会とかの形で共有できたらなと思っています。

○長江会長

ありがとうございます。

七草マラソン、その他スポーツ関係でご尽力いただいている岡本委員ありますか。

○岡本委員

七草マラソンについては、おかげで本当に盛大に事故もなく終わることができましたので感謝申し上げたいと思います。

体育協会ですけども、今年の4月から、国、県に並んで、スポーツ協会ということで名称を変更するということにして、この3月の評議員会で決定して手続きをとるということになりましたので、報告しておきたいと思います。私は以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

ルーマニアの方で1月の七草マラソンの当日交流会が開かれているということも含めまして、伊藤委員の方から何か、国際交流という面でございましたら、

よろしくお願ひします。

○伊藤委員

ちょっと質問をいいですか。

○長江会長

よろしくお願ひします。

○伊藤委員

以前にご説明あったのかもしれないので、もしそういうことなら申し訳ないんですが、今回、事業経過の中に、四中の英語部でボランティア育成講座を二度にわたって行われておられるということで、こういうボランティアを育成されるためのいろんなオリエンテーションというか、講座を開かれるのは非常にいいことだし、人をリクルートするのはいいことだと思うんですけども、全体で四中しか今のところ今回の事業にはないんですけども、他の中学なり高校に広げる計画はあるのかということと、それから、育成講座を受けられた方々がせっかくやる気になっているのを、どういう場で活躍する機会が与えられるのか、その辺のところを今お考えになっておられるのがあれば教えていただきたいんですけど。

○事務局

まず、四中以外にということですが、平成29年度は小金中英語部でやっておりました。内容につきましては、小金中は、小金の北側の地域に歴史観光資源が非常に豊富ですので、子どもたちに地域の観光ガイドとして育成というのを1つの目標としてやっておりました。内容としては、講座をやって、それから本土寺や東漸寺で英語の先生に仮想外国人をやっていただいて、模擬体験などをやっております。

平成30年度ですが、一つステップアップとして、実際、外国人の方がいらっしやったときの実体験ということで行いまして、1学期期間中は小金中学校で講座を行いまして、ドミニカ共和国の方々が8月に来たときに、本土寺で交流を行いました。2学期に入りまして、四中で講座を2度行いまして、七草マラソンで実際に海外から来た方との交流を行いました。

なぜ小金中と四中かということなんですが、市内の中学校で英語部があるのが四中と小金中だけです。ちなみに、平成29年度モデル事業としていろいろ行って、英語部がないと、なかなか条件として難しいという検証結果も得られましたので、30年度はもう1校拡大という意味で、英語部のある四中で行っております。

どういうことに役立てるかということなんですが、私たちのコンセプトとしては、ボランティアガイドの育成というのは、オリンピック・パラリンピック教育の一環でもありまして、オリンピック・パラリンピックを意識してボランティアできる人材を育成するということをコンセプトで、中学生も将来役に立つようにということで、例えばオリンピック・パラリンピックが終わってからも、外国人が来たときにお声がけしたりとか、挨拶ですとか道案内などのレッ

スンもやっておりますので、オリンピック・パラリンピックを意識して人材を育成するということを目指しているという状況でございます。これは平成31年度も継続したい考えではおります。

以上でございます。

○長江会長

ありがとうございます。

そのほか、市立松戸高校の国際関係のほうでもプログラムをやりましたよね。

○事務局

今の中学生の話に補足なんですが、県立松戸高校さんや市立松戸高校さんですとか、あと松戸国際高校さんですとか、そういうところにも一応お話をしているのと、あと、大学につきましては、先ほどドミニカ共和国に派遣という話もありましたし、あと聖徳大学で来年度児童学科の中にスポーツ健康コースができて、障がい者スポーツだとか、オリンピック・パラリンピック論ですとか、そういったことも勉強する学生さんができるということになっていますので、そういったところとのコラボレーションもやっていきたいと考えています。

あと、高校の方では、小金高校で文化プログラムに独自で応募していただいたりですとか、県立松戸高校にこの間行きましたら、そちらでも独自に学校側でオリンピック・パラリンピックの応募をしてくださっているのもありましたので、文科省がやっているものなんですけれども、学校がやっているところとうまくコラボレーションしていきたいと考えています。

なお、平成29年度の小金中の事業につきましては、beyond2020 といまして、外国人とのバリアを取り除く取り組みが認められまして、beyond2020 の認証を内閣府から受けております。

○長江会長

ありがとうございます。

先ほど七草マラソンでルーマニアとの交流のところ、ランニング教室で地元中学生との交流とか、4歳からという話がありましたが、そちらのほうに聖徳大学で百瀬先生という先生がおられて、実は冬季オリンピックのボブスレーの監督をしまして、長野からずっとオリンピックに出ている方なんですけど、そちらの先生がランニング教室の指導者として協力をさせていただいております。できる限り市内の大学と連携して、学生も含めて交流しながら、ボランティア育成という点でも力になればというような形で動いております。

須田委員のほうから、国際交流とかそういう面で何かご質問とかご意見とかございますでしょうか。

○須田委員

今までの話の中で、子どもたちがインバウンドというか、オリンピック・パラリンピックに向けた外国人が来たときに対応できるような範囲、うちもつい先週、日本政府観光局の 카테고리 1 という外国人対応用の申請をして、その申請許可がおりたんですね。その中で、例えば英語の常駐者がいなきゃいけな

いとかハードルがありまして、せっかくそれぞれの取り組みをしているので、国際交流協会では、高校生スピーチコンテストというのをやっていたりとか、お互いに事業体をもう少し連携させると、松戸市としての全体感が出てくるのかなど。なので、その辺は今後我々も含めて情報共有しながら、少し活用できるような形になると、面として広がってくるのかなと思うので、ぜひともその辺の協力はしたいというふうに思っております。

○長江会長

ありがとうございます。尾崎委員のほうから何かございますか。

○尾崎委員

この活動というよりも、スポーツメーカーとしての今の状況なんか見ますと、年明けからゴールデンスポーツイヤーズと言われているラグビー、オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターゲームズという話とともに、2020年以降にどういう形でレガシーをとというようなことが、去年のこの時期に比べますと、2020年以降ということが多いなという印象を受けている中で、特にその中でも障がい者のスポーツですね。パラリンピックというキーワードで障害者のスポーツが2020年以降、いろんな形で支援をしっかりと受けていただきながら社会に広まっていくのかと、こういうようなところが結構多く問題提起も含めてされていたなど。そういう中で、今回の事業経過を振り返って見ていきますと、そういう内容のことがきちっと実践をされていていっていると。これがこの後どういう形で続いていくのかというのが、松戸市の1つのキーワードとしてぜひ継続をして、それが市民の皆さんのいろんな部分での松戸市の付加価値づくりというところにつながればいいなというふうに思っています。

手前みそですが、セノーの会社とすれば、オリンピックの体操競技の正式器具に決まったり、バレーボールも、シッティングバレーも含めて、バレー競技の全面的サプライヤーを務めるというようなことも決まりましたので、そういう視点で、あと500日ぐらいですが、松戸市の方で我々がサポートできる部分はしっかり示していきたいと思えます。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。薄葉委員のほうからはございますか。

○薄葉委員

新聞記事の方で吉田沙保里さんの写真が出ていますけども、私どものほうで商工会議所の広報紙の中で会頭対談という、毎月じゃないんですけど、今回2月号で市長と対談していただきまして、そこでオリンピック・パラリンピックが出ていまして、役所と連携して記事を整理しましたけども、そんなことをやって、少しご協力できるかなど。7,000部ほどつくっていますので。

○長江会長

ありがとうございます。

松戸市内の事業所様に配られる広報紙ですので、大変ありがたいです。

○岡本委員

この場で話題になって、話をしているかどうかちょっとわかりませんが、体育協会として、運動公園陸上競技場がそうになってくれればいいなと希望していたんですけど、改修するんですね。それもとてもしばらしいグラウンドにするということで、日本に3つしかないぐらいのすばらしいものになってくると。

○事務局

正式には3月議会が終わってからなので、今、要望している段階です。

ただ、フィールドをひっくるめて、三種公認という競技場でもありますので、それ以上の付加価値が出るような、夜間照明ですとか、フィールドの人工芝ですとか、いろんな種目が利用できるような競技場になってほしいなということで、今、予算の要求をしている段階です。また正式に決まりましたら、お知らせしたいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。よりよい方向に。改修はオリンピック関連というだけじゃなくて、その後もずっとスポーツ振興に役立ちますので、本当によろしくお願いいたします。

○西機委員

質問、いいですか。

先ほど英語クラブ、ボランティアの交流みたいなお話がありましたけど、私、新松戸キャンパスの状況をもうひとつ把握していないんですけど、留学生は毎年、特に4月に来るんですけど、聖徳大学さんにも留学生がいる中で、留学生同士が交流する場とか、そこに地元の中高生が入ってくるような機会とかって、実際あるんですか。

○須田委員

実際はそんなにないですね。千葉大は千葉大であるんです。流経さんは流経さんでやっていて、聖徳さんは聖徳さんでやっているんです。

○西機委員

そうですね。必ずそういう歓迎会、交流会って、それぞれではやっていると思うんですけど、せっかくこういうスポーツのオリンピック・パラリンピックという共通のキーワードがあるのだったら、この間も施設を見ていただきましたけど、うちにも交流したりする用の部屋というか、交流しやすいようなつくりにもなったりしているものを、もう少し外部と連携して活用したらいいなというのを非常に思ったので。

○事務局

つなげて、プラットフォームになればいいなと思っております。

今回、ドミニカ共和国に派遣される方がいらっしゃる、その報告会を、例えば聖徳の方にも来ていただいたりとか、四中だったり中学生だったりも来ていいよというオープンな形でやっていくということがまず大事なのかなというのは感じております。

○長江会長

1つ、過去のことなんですけれども、聖徳には人間栄養・管理栄養という伝統的に50年以上やっている管理栄養士のコースがありまして、留学生の方々に日本の料理を体験してつくって覚えて帰ってもらおうという企画で、留学生の方々が流通経済大の方々にも随分協力していただいて、駅前の10号の10階のキッチンスタジオというのがあるんですけど、そこで千葉大とか経済流通大の方とか、あるいは聖徳の留学生と一緒に料理を学ぶというようなプログラムを5年ぐらい前に2回ほどした経験があるんですけど、当然、料理ですから、つくったら自分たちでミニパーティみたいな感じで食べるということがついていて、そういうようなことを講座でやっておりました。

○西機委員

それが強みで、料理で、こっちは例えばスポーツ、ボッチャとか、ゴールボールを留学生に体験してもらって、地元の小中学生も入ってもらったら、特にパラスポーツだと、一緒に楽しめるので。

○事務局

できれば、今年度、青春祭という文化祭でボッチャ体験会を初めて流経大のキャンパスでやらせていただいたんですが、来年度もぜひそういったことをやっていけたらいいかなと思います。

○長江会長

せっかく四大学ありますから、それぞれの大学に呼びかけて、みんなが横につながっていけば一番いいんだと思うので、留学生もそうだと思いますし、学生同士もチャンスがあればいいんじゃないかというふうに思います。

○事務局

ぜひまたご協力をよろしく申し上げます。

○長江会長

先ほどの須田委員じゃないですけど、個別にはやっているけど、つながらないというところを今回つないでいけば、レガシーとして残るので。

ありがとうございます。

それでは、続きまして、2番目のルーマニアに渡航されたということの報告につきまして、事務局よりご説明のほうをよろしく願いいたします。

(事務局からルーマニア渡航の報告)

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方よりご質問とかあるいはご意見とかございましたら、よろしく願いいたします。

ルーマニアに行ってきたいただいたということなんですけど、岡本委員いかがでしょうか。

○岡本委員

5月というと、もうすぐですからね。調整の進捗状況というのはどうなんですか。

○事務局

昨年11月にそういったお申し出を受けまして、スポーツ課にすぐに相談をしたところ、改修時期が夏ごろからで、4月、5月に前倒しで大会を実施するといった状況もある中で、市民の方にご不便がないような形で、施設を予約して、それをルーマニアの関係者に流していくところです。

ただ、陸上については、七草マラソンで毎年陸上の関係者が来ているということで、松戸の陸上競技場が使えなくとも、例えば公園内とか道路とか、そういうところを走るということも可能だというふうには、一応関係者の中では話をできております。ですので、世界リレーで横浜に来るということは確実で、松戸でキャンプをしたいということは、強い要望だと思いますので、迎え入れる形で調整をしたいと思っています。

○伊藤委員

すみません。世界リレーというのは、どういう大会なんですか。

○事務局

リレーだけをやる大会となります。

○伊藤委員

短距離なのか、長距離なのか。

○事務局

100メートル掛ける4名、200メートル掛ける4名、400メートル掛ける4名、4名でリレーをする。それが100メートル、200メートル、400メートル、800メートル、リレーだけの大会です。

○伊藤委員

800掛ける4、それが一番長いやつですか。

○事務局

はい。そういう大会になります。

○伊藤委員

30名前後来るわけですか。

○事務局

ルーマニア側から要望を受けているのは、男性も女性も出たいということで、補欠を入れて1チーム6名で、男女の2チームとなります。

○伊藤委員

そうすると、施設として必要なのはトラックになると思いますが、さっき道路とおっしゃったのは。

○事務局

トラックがもし使えない時間は、道路でも走れるという練習。トレーニングはできるということです。

○伊藤委員

でも、800メートルの人もほとんど全力で走りますよね。そうすると、なかなか道路というのは。

○事務局

ただ、陸上の練習というのが、毎回全速力で800メートルを走るということではなくて、ある程度みたいなどころもあるようで。

○伊藤委員

そういうときは道路を使って。

○事務局

できたら皆さんが持っている大学のところをちょっと使わせていただきたいとか、そういうこともできたらお願いしたいところではございます。

○長江会長

そうですね。

○事務局

この間、七草マラソンでボボーチャ選手が来たとき、夜の時間帯に公園の周りを走っていたり、毎朝5時半に起きて、20キロ走っていたそうです。

○須田委員

今、言ったように、20名弱ぐらいのところかなという想定ですけど、今年の4月、5月ということですよ。宿泊もあるけど、空きの状況だとか、イベントをやるときに一番恐いのが泊まる場所がないというやつなんですけど、そのあたりはどういうふうか。

○事務局

そのところは、向こう側で一応仮予約みたいな、困らない形では押さえているそうです。

○長江会長

ほかに委員の方々からよろしいですか。

○事務局

1点ちょっと補足させていただきます。

ルーマニアの競技の中で水泳の覚書も交わしているところなんですけど、5ページのところですが、11月に行った際に私どもの方でプレゼンをしたんですけども、そのときの水泳の施設については、運動公園のプールを説明させていただいたんですけど、オリンピックの方の練習場としましては、屋内であること、あとは水深がある程度深いものをご希望だということで、私どもの方では、例えば千葉県にございます習志野の国際水泳場ですとかそういったところを借りられないかといったところも、戻ってきて調整しているところではございますが、長期間、県の施設を抑えるということは実はすごく難しい状況がございまして、11月に行ったときも、3月までに難しい状況であればそれをまず連絡くださいということを聞いておりましたので、今、1週間程度しか押さえられないという状況をお伝えしております。ですから、その中でルーマニア側がどういうふ

うに判断するかというのを返事を待って対応していくという状況がございます。

○長江会長

ちなみに、市内のほかの屋内用プールということは全部お調べになったのでしょうか。

○事務局

50メートルプールが希望ですが、通常スポーツクラブだと25メートルで、水深があまりない。日本のオリンピック仕様のプールというのは、下が可動式になったりとか、そういったものらしいので、なかなか難しいというのが正直なところです。

○長江会長

わかりました。ほかにもございますか。

○伊藤委員

今回のルーマニアの4ページから5ページにかけて、委員会での個別に話しながら、我々から見ると、そこまで要求するのかなというような、向こうも目いっぱい要求しているなという感じのあれが出てきているので、若干幾つか驚いたのもあるんですけども、これは基本的に事前キャンプを受けるときの自治体のものが既にあるとか、あるいはいろんな状況で違うと思うんですけども、それぞれの国のいろんなリクエストに対してどう対応するかということは、もちろん自治体に任されていて、全く統一の基準なんてないんでしょうけども、きちとした理由があれば断れるんですけども、ここまでやってくれてもいいじゃないかとか、ちょっと予算を追加してこれをやったほうがいいのかとか、その辺のところの判断というのは、かなり難しい判断になるのかなという感じがするんですけども、日本政府のほうで何か統一的なガイドラインなんてもちろんないんでしょうね。

○事務局

実は、今おっしゃられた基準というところにつきましては、事前キャンプをやる際の基準を国が決めています。オリンピックをやる会場、設備を全部の自治体でやるのはとても無理なので、事前キャンプをやるときの施設の基準あるいは機材とかはこういうのがあればいいよという基準は、IF基準といって、競技ごとに決まっております。松戸市の場合ですと、レスリングとバレーボールと陸上も、一応基準をクリアしております。クリアしているという状況を国に登録とかもしてまして、ただ、プールにつきましては、正直ちょっと難しいという。

○伊藤委員

だから、トラックのどこかの基準に合致していきやいけないとか、あるいはそこまではやらなくていいとか、恐らくそういうのはあるんでしょうけども、見てみると、例えば卓球をやるための床はどうのこうのだからとか、幾つ以上用意してくれとか、そういうような個別のものうちの判断で、それならしようがない、やりましょうとか、いや、そこまではだめですよという。その辺のどこ

ろの判断というのはなかなか難しいのかなと。

○事務局

事前キャンプを受け入れている自治体で、松戸市は2カ国も受けていますけれども、なかなか伸びないのは、こういった交渉になると難しさが出てくるからだと思います。

○伊藤委員

だから、そこは本当に難しいところだと思うんですが、もちろん相手も理解してくれると思うんですが、どこまで応えられるかというのは、市民サイドから見ると、何でそこまでやるんですかという。

○事務局

相手の方の立場に立てば、日本に来て、とにかくいい成績を残さなくちゃいけないという考えもあるかと思います。

○伊藤委員

その辺の経費分担とかそういったものは、一応先方との間で合意は、もちろん宿泊費とか、交通費とかしやすいのはいいんだけど、こういういろんな施設を用意してほしいとか、そういうのは完全にこちらの負担ということになるんですか。

○事務局

松戸市はあくまでも市民の方が後ほどまでも使えるということが前提で改修しておりますので、あくまでもそういうようなスタンスで協議をしながら進めております。

事前キャンプを受け入れるホストタウン交流も、担当としては、この部分が一番大変なところだとは思いますが、実際、お会いしたときに、日本だったら何でもできるという感じを受けました。世界バレーでドミニカ共和国のバレーボールチームに会ったときも、セノーさんがいるから松戸は大丈夫と言われたんですけども、とにかく日本なら何でもやってくれるみたいな感覚があるのはすごく感じました。

でも、そうはいつでも、何でもかんでもできないので、一つ一つクリアしていきながらやっていっている状況がございます。

○事務局

最終的には、松戸市としては、きれいにするところはきれいにするんですけど、やれることはここまでということを示して、それに対して相手側が、これだったらぜひお世話になりたいとか、これだったらほかも考えようかなとか、最終的には松戸市は用意できるのはここまでですよというのをしっかり伝えて、それに対して相手が最終的にどうするかということになると思います。

○長江会長

ありがとうございます。ルーマニア視察報告に関してのご意見等、よろしいでしょうか。

それでは、議題の（１）の松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進第3次行動計画につきまして、事務局よりご説明、よろしく願いいたします。

(事務局から第3次行動計画について説明)

○長江会長

説明ありがとうございます。

ただいま事務局から説明していただいた点につきまして、委員の皆様からご意見等をお伺いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

尾崎委員いかがでしょうか。

○尾崎委員

これまでの取り組み同様に、いかに行動計画にしっかり落とし込んで実行していくかということがより重要になってくるなという部分と、冒頭の話でされていますけども、点で動いている活動をいかに結びつけるかということからしますと、情報発信なんかでは、ここに書いていますように、SNSとかの発信だったり、それが各企業さんを含めた発信源とつないで、いろんなところから松戸市の活動状況が広域に発信されるような、そういう取り組みをよりやっていただけると、市民の皆さんへの関心がより高まると思っておりますので、それを期待したいなど。

ちょっと細かい話ですけど、よく市民の人たちが関心を持つために、パブリックビューイングだったり、そういうようなことなんかは、今ある既存の施設で十分できると思えますし、それがライブであるのか、VTRなのかはともかくとして、そういう環境づくりなんかもやってはどうかなというふうに感じました。以上です。

○長江会長

その点はいかがでしょう。

○事務局

SNS、ツイッターにつきましては、遅ればせながら始めたというところもごございますし、そういうのをつなぐということをやりたいと考えています。

パブリックビューイングにつきましては、実際、世界バレーに昨年9月に行かせていただいて、スポーツが持つ感動とか、実際に行けばもちろんいいんですけれども、それを共有できる場所があればもっといいだろうなということはずごく感じましたので、まだ要望の段階なんですけど、大型のテレビで、例えばラグビーもしかり、日本対ドミニカ共和国のバレーボールの試合もしかり、そういったものも放映が予定されるので、市民の方に共有できるような形で常時、市役所の中に設置したいと考えております。

○尾崎委員

先ほどの世界リレーの話もありますので。

陸上アスリートは関心が高いんですけど、一般アスリートは、市民マラソン以外、走るということのが随分遠い世界のようなので、そういうものを活用すれば非常におもしろいのではないかなと思っています。

○長江会長

一緒に応援するという臨場感もすごく大切なことなので、ぜひ実現の方向でよろしくをお願いします。

西機委員からいかがでしょうか。

○西機委員

キャンプ誘致が一番軸になって、これまでも進めてきたというのもあるんですが、どうしても自治体と競技団体の活動を軸に次が決まっていくというようなところが強いのかなと。そうなってくると、大会が終わってしまうと、その先が自走しないというか、市民の方々が参加型で自分たちでやりたいことをやっていくという動きを今のうちにつくっておかないと、市が呼びかけるから今はやるけど、もう呼びかけなくなったらやらないとなって、レガシーに残らないので、ちょっとその辺の仕掛けを、先ほど点を線でおっしゃっていましたが、もう少し自走するような取り組みとか、これをどこどこでやりませんか、なぜなら、やると、この先こういうことで連携してやっていけますからというような絵を今のうちに描かないと、先ほどの改修にしろ、何にしろ、この瞬間にお金と労力を落として、その後続かないということにならないかなというのはちょっと心配な反面、もう少し交流を活性化すれば、一気に長く広がるという可能性はあると思うので、ちょっとその辺の仕掛けが早急に、仕掛けだけじゃなくて、実行に移す必要があるんじゃないかなというのはすごく感じます。

○事務局

その点につきましては、例えば、ルーマニアとかそういうところでは、スポーツ交流という形で、例えば松戸の学生をルーマニアに行ってもらって、スポーツを教えてもらう、またはルーマニアのほうからも来てもらってやるとか、あと、今、ドミニカ共和国とは梨の交流という形でやっていますから、ホストタウンということで、今後も2020年以降も徐々に広げてやっていこうと考えております。

○西機委員

今のはすごくわかるんですけど、種植え等をやるのを市がやるというスタンスでやっているのでも、そもそも市民がこういう機会にとか、今、何をやりたいのかとか、先ほどおっしゃった市民マラソンが好きな人ならば、ちなみに何をやりたいのかという、地元の人たちに対するヒアリングと連携ということをしなくて、常にこっち側からボール投げているという状況ばかりのような気がしてならないですね。そうすると、市も次にまた違う事業が入ったら、そっち側に移るだろうし、市民もそれでボールを投げてこなければ打ち返さないというふうになってくるので、機会だけ用意しておいて、市民の人がボールを投げられるような仕組みというか、意見を折り込んで、逆に市の方が応えていくと

いう仕組みをつくっていく必要がすごくあるんじゃないかなと思うんです。

○事務局

今回、市民活動のイベントが3月にあるんですが、市民の方々からこういうことをやりたいんだけどというアプローチを何件か実はいただいたんです。その中で、例えばホストタウンのPRとかを自分たちがやりたいからチラシを持っていきたくとか、あと、ボッチャを自分たちがやりたいからというお声が初めて来ていまして、ちょっとずつ火が起きている感じはいたします。先日、ルーマニアのボボーチャ選手が見えて陸上のトレーニング教室をやったときにも、今までは全然関係なかった人たちが一度に集まってスポーツをやったりというのがありました。オープンでできるような仕組みをどういうふうにつくっていくかというのをこれから、来年度は特にそれが一番のテーマかなと思いますし、ホストタウンの交流というのは、オリンピック・パラリンピックが終わった後も続けていくというのが市の方針ですので、なるべく市民の方が参加しやすいような仕組みづくりに取り組んでいきたいと思います。その中で、大学の皆様のご協力ですとか、そういったことも大事になってくると思うので、いかに支援者というか、サポーターというか、そういうのを増やしていけるか、これからは正念場じゃないかなと思います。

○長江会長

多分、オリンピック・パラリンピックイヤーが来年だから、こういうことをやりたい募集みたいな形の窓口として市の方が、何でもかんでもいいというわけではないですけども、そういうことも含めて双方向にならないと、終わった後に続かないというのは、本当に西機委員のおっしゃるところだというふうに思うんですけど。

伊藤委員のほうから何かございますでしょうか。

○伊藤委員

今のお話というのは、それができれば非常に理想的だし、オリンピック・パラリンピックはそういうものを盛り上げるための一つの手段であって、終わってからも市民が中心で何かそういう動きが出てきて、つながっていけるような仕掛けを確かにつくらなきゃいけないというのは、私も本当によくわかるし、そのとおりだと思うんですけども、なかなか現実問題としては、つながりというか、そういったことがないと、なかなか市民サイドでイニシアチブをとってやるというのは、実態的には難しいんだろうなと思うので、実際こういう事業で、例えばオリンピック・パラリンピックが終わってしまえば、市の組織の中でオリンピック・パラリンピック推進課もおそらくなくなるというか、ちょっと形は変わって縮小するんだろうと思うんですね。ですからそこで、これまで盛り上がった2カ国との交流をつなげていくためには、過去のこれまでの経験からいうと、松戸市とルーマニアとドミニカ共和国の、国というわけにはいかないので、どこか代表的な都市と姉妹交流関係のような形で交流を維持しながら、内容は、もちろんスポーツ交流はせっかく盛り上がったんだから、スポー

ツの交流もやって、市民の中でやってくれる人を探してつなげてやっていく。あるいはそれに加えて、今度は青少年の交流をやるとか、場合によってはいろんな訪問団が行くとか、今回、ルーマニアに市長が行かれましたが、それに対する答礼みたいな形で来てもらうとか、とにかくいろんな形で市がある程度は引き続き主導していかざるを得ないのかなと。徐々に市民の方にバトンを渡していくというか。

市民の方もそれをやる理由づけというか、そういったものがなかなか一朝一夕に出てこないじゃないですか。だから、いきなり渡したよと、オリンピック・パラリンピックが終わったからやってね、といっても私はなかなか難しいのかなというふうに思うので、少しずつ、梨の交流なんかもドミニカ共和国とずっと続けていって、やがて実がなっていけば、ほかの形で引き渡すということもできるんじゃないかなと思っているんですが。そんな感じがします。

○長江会長

つないでいくには、理由づけもそうだし、次につなぐ1つの方向性をちゃんとつくってあげないと、という部分ですね。ご意見、ありがとうございます。

須田委員のほうからはいかがでしょう。

○須田委員

今の件とはちょっと違うんですけども、旧と新とあって、前は第2次で、例えば新旧対照表の7ページを見ると、新しくなっているのは赤で描かれていて、そうすると、第2次の到達点みたいなものがあつたのかなというふうに思うんですね。

例えばうちにとっていいのは、2番目の松戸の文化や観光、多言語の表記だとかこういう関係なんかももっとももっと増えたらいいなと。うちも増やしたいなと思っていたりする中で、例えば市の施設につくるのもコストがかかる。せっかくここに記載がある中で、これを具現化してつけていくために予算化をしていくとか、そういうステップがあつて、80%到達しているところにこうやれば大体終わったよね、みたいなところがあるのが行動計画なのかなと思うので、そのあたりをぜひとも具現化するために、もちろん協力してやらなきゃいけない部分であるんですけども、予算的に、例えば100万あつたのが50万になったとか、そういうような話につなげていくとわかりやすいかなと。

○事務局

そうですね。評価をしてその次につなげるという、PDCAサイクルというところをどこまで求めるのかということはあると思うんですけども、短期的には正直、2年でという、なかなか難しい部分もありますので、ただ、こういった方向に向かって、松戸市の国際化という観点からでも進んでおりますので、オリンピック・パラリンピックという面から見ると、こういう行動計画になるんですが、松戸市の国際化という施策の面から言うとまた違う部分もありますので、そういうところは庁内の各課と連携したりして、あと皆様とも連

携して進めていきたいと思えます。

○須田委員

そういう意味でいうと、タイミング的に進めやすい。オリンピック・パラリンピックという機会というか、そういうのも1つだと思う。

○事務局

ちょうど今、千葉大園芸学部さんで多言語表記ということで、市と協働事業という形で市民部がやっているところがありますので、そういうのを含めてやっていきたいと思えます。

○長江会長

ありがとうございます。まちづくり協働の補助金事業ですね。

岡本委員のほうからはございますか。

○岡本委員

特別あれですけど、ただ、これを見て、話を聞いて、5月の世界リレー、これを何とか受け入れができて、ちゃんと成果が上がるように願っていますが、あと、9月の応援、これも何やかんやいっても、市民の方にちゃんと知ってもらって、なるべく応援できるような体制をつくってもらおうということで。私は体育協会の会長ですから、体育協会の加盟団体というのは、休んでいるところもあるけど、四十四、五団体あるわけですね。フェンシングとか卓球とか5種目の会員は、多少情報的によくわかってきていますけど、そのほかの団体について、体育協会の会員についても、我々の活動というのがどのくらい進んでいるかというのは、なかなかできていない感じが、わかってきていないなと思うんですね。

若いときから長年体育協会の役員をしていますので、以前は各種目団体の会長会というのを結構やっていたんですけど、今はほとんどないんですね。代表者会議というのは年に1回か2回ぐらいしかない。そうすると、いろんな面で協力してやらなくちゃいけない私の団体すら、特別に種目で関係していない会員というのはわかっていないなと。だから、知ってもらおう集まりをちょっとやっていかななくちゃいけないなという感じを持ちました。だから、スポーツ課の課長とも相談しながら、そういう方向で進めていかななくちゃいけないなと思えます。

○須田委員

社会教育関係団体についても同様で、スポーツや社会教育関係団体だけでなく、SNSの発信は意外と比例しちゃっていて、SNSにすればするほどそのグループだけになっちゃうような感じがするんですね。要するに、SNSなら広く発信できるかというのと、決してそうじゃないと。例えば、パラダイスエアも、世界の芸術家は結構来るんですけど、世界約100カ国ぐらいから600人を上回るけど、ほかの人は誰も知らない。だから、SNSで発信って、一般論的にSNSで拡散するような感じがするけど、実は好きな人しか集まらないような。なので、さっき言った連携はどうするかというのは、別にオリンピッ

ク・パラリンピックだけの課題じゃないけど、実際すごくあるのかなというふうには感じているんですね。

○長江会長

お話があったところでいうと、インターネットとかSNS以外に人と人がアナログでつながることの重要さというのは求められているところだというふうにつくづく思います。そのために先ほどの新聞の記事も、新聞をとっていないと見ないわけですよ。なおかつ、1紙しかとっていないければ、当然、1紙の新聞記事しか見ないから、とりあえずホームページやなんかには掲載してもらって、できるだけやっているということが見える化しないと困りますよね、というお話をさせていただいたんです。特に新聞をとっていらっしゃる方の年齢層が高くなっているんで、そういうことからいうと、ネットでも見られるというふうにしていただかないと、周知するというのは本当に厳しい時代なので、よろしく願いいたします。

商工会議所のほうで薄葉委員から、先ほど広報紙でPRしていただいたり、いろいろしているんですが。

○薄葉委員

ホストタウンや事前キャンプが松戸の経済界にどういう影響を与えてくださるのかなと思ったことがありましたけれども、関連する特別な経済は、そういう意味でも効果はないと。ないからだめというんじゃないくて、先ほどのルーマニアの報告を聞いていて、日常の仕事をしていると、松戸市は大都会なんですけど、随分小さな田舎みたいな性質がいっぱいあるなということのを思いながら仕事をしているときがあるんですが、さっきの報告を聞いていて、ここで国際化という言葉を使っていますけど、これは目指せばなるぞと、なり得るぞと、また、その方向にいかないと、経済界の話だけど、松戸は限界が来るなと、そんなことを思って聞いていたんですが、経済的にいうと、国際化というよりも、グローバル化というのがぴんと来るんですけどね。

うちのほうで来年度事業で、商工会議所も5,000以上会員がいて、代議員制でやっていますから、120人議員さんがいて、その会議が終わらないと話しちゃいけないこともいっぱいあるんですけども、キャッシュレス決済ということで、IT環境を徹底的に、大企業がやっているのは当たり前なんですけど、我々中小企業、正確に言えば小規模企業ですよね。そういうところの方々のIT環境をどう進めるかという1つのきりもみの先端みたいなところにキャッシュレス決済、これは国のほうで、須田さんのほうでも観光、インバウンドだという言い方ですよね。

私が今、この推進会議として聞いているのは、外国人が来やすい環境、事前キャンプに来る人も外国人ですから、そういうふうな意味で、来年度キャッシュレス決済化をということでIT環境を徹底的に、我々ができるのは啓蒙、啓発なんです。そして、それを聞いて、どれだけの事業者がやるかというのはまた別議論なんですけれども、徹底的にうちの3大事業の1つにする、議員総

会で決まればですけども、決まる前に言っちゃってもいいと思うんですけども、そういうようなことでやっていこうかなと。

だから、松戸市がオリンピック・パラリンピックに直接的でないにしても、事前キャンプに参加することによって国際化を図るといふ、そして子どもたちの教育とか、英語の学級もあるけど、そういう意味で経済界も大いにこういう環境をつくってもらって、それをチャンスに。ですから、2020年以降ですよ。そういうのがうまく整っていけばということで、この事業に対するどの程度の協力かはわかりませんが、松戸も格好いい街になったらいいなと思えますね。ちょっとまとまらない話ですけど。

○長江会長

ほかに委員の方々のほうからご発言等はございますでしょうか。

そうしましたら、さまざまなご意見が出ましたところを第3次行動計画見直しにまた反映させていただくというような方向性でご異議ございませんでしょうか。第3次行動計画を進めていくということでよろしいでしょうか。

それでは、ご異議がないという形で承認されたものとさせていただきます。

最後に、そのほか何かご意見、ご質問等はございますでしょうか。

○岡本委員

1つだけ。ドミニカ共和国に梨を植えましたよね。あれは今後どんどん進めていくという形なんですね。

○事務局

ドミニカ共和国の梨につきましては、昨年1月にまずは苗木と種を持っています。実は苗木を25本持っていていっているんですが、気候の問題とかいろいろありまして、残っているのが10本弱ぐらいにはなっているんですが、ただ、種で植えてきたものがかなり育ってしまっていて、それが200本以上というところで、今月中旬から再度、観光協会のご協力をいただいて、接木をしてもらうのとあわせて、種をさらにまいてくるということで、まずは苗木の生産基地をつくりまして、それがうまくいくようであれば、実際にドミニカ共和国のコンスタンサ市というところなんですね、そこの農家さんのほうに配布していくというようなことを今、ドミニカ共和国の農地庁と一緒にやって取り組んでいるところでございます。

2020年に梨の実がなればという話はしているんですが、そこでできたとしても、そんなにたくさんできるわけではありませぬので、まだまだ農家のほうに行き渡って、ドミニカ共和国で梨が生産できるようになるまでは5年あるいは10年とかかかるような息の長い事業になってくると思いますので、我々もそういう覚悟で取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○岡本委員

5年でも10年でもいいですけども、どんどん梨がふえて、少し経済的にも松戸市の収入になっていければ。でもそれは関係ないか。

○事務局

収入の部分が一番難しいところではあるんですけども、1つには、権利料みたいな部分の登録がうまくいけば、そのフィードバックというような構想も含めて、いろいろまた皆様のアドバイスをいただきながら。

○長江会長

でも、梨のブランドとしてのネーミングで、『松戸』という名前で売り出してもらうとか何か方法を考えて、先日もテレビの鉄腕DASHで矢切ネギをアピールしたみたいなので、やっぱりブランド力ってすごく重要なので、そこら辺で実をとっていただけたら一番いいかと思うんです。

○西機委員

次の会議がいつかというのと、そのときにちょっとお願いというか、リクエストなんですけど、私の認識では、松戸市の総合計画も2020年で途切れると把握しているんですけど、先ほど市民が自走するとかということも言いましたが、一方では、各課、ここにいらっしゃるそれぞれの協会というところに、この計画の成果をバトンタッチしていくようなものが2021年とかに本来だったら入ってくると思うんですよね。総合計画がこの先どうなっていくのかとか、ほかの個別計画と結びつけないことには、計画は6年間で終わりというものではないと思うので、かといって、期限はあると思いますので、計画の見通しというか、相関とか、その辺をどういうふうにお考えかということ、できる範囲で今度の会議のときにお考えを示していただけると、何となくこの先どうしたらいいのかということがちょっと見えるのかなというふうに思ったので。

○事務局

その点に関しましては、今、委員おっしゃったとおり、2021年から新しい総合計画が立ち上がります。今、予算を要求してしまして、4月から総合計画に関しまして、いろんな市民の方の意見だとか聞きながらつくっていくと、それで今、進めております。その準備を今後進めていくという形で、ホストタウンの関係だとか、そういうのも含めて計画に入れていこうと考えております。

○長江会長

ぜひ、会議の中でもそれが見える化してわかるようにご説明のほうもよろしくお願いしたいと思います。

○西機委員

そうすると、結構実験的なことも、この中の運用のやり方でいろんなことができそうな気がしています。

○事務局

そうですね。ありがとうございます。

○伊藤委員

すみません。もう一点だけ。

○長江会長

よろしく申し上げます。

○伊藤委員

今回、市長がルーマニアに行かれたときに、松戸市のいろんなお土産は当然持っていかれたと思うんですけども、松戸市のPRの資料とかそういったものはどの程度、持っていられましたか。

○事務局

松戸市のほうでシティプロモーション的につくっているもの、「るるぶ」という旅行雑誌の形にしたものですか他にも。

○伊藤委員

それは向こうに渡されましたか。

○事務局

持っていきました。1点、ちょっと悔やんだことは、武蔵野市がルーマニアと交流をされていて、非常に長いおつき合いがあるんですが、武蔵野市のポスターが大使館に貼られていたんですが、松戸市のポスターが貼られていなかったのので、松戸市のポスターを送りました。

○伊藤委員

それがちょっと言いたかったんですけど、日本の大使館は京都の宣伝だとか、どうぞ来てくださいよという大きなポスターをルーマニアの人が入ってくるようなところに貼ってあるんです。ルーマニア人に松戸のことをもっと知ってもらおうというような努力をぜひやっていただければと思います。

○事務局

少しずつやっていきたいと思います。ポスターはお渡しをしております。

○伊藤委員

それから、今のことは、同じようにドミニカ共和国にも当てはまるので、できればドミニカ共和国も。ちょっと遅れても構わないので、ぜひオリンピック・パラリンピックまでにはお願いしたいと思います。

○長江会長

貴重なご意見、ありがとうございます。

それでは、事務局から、委嘱期間満了の説明というのがあるようなので。

○事務局

実は、委員の皆様の任期がこの3月31日で切れまして、4月からまた新たに委嘱期間がまいります。新たにまた2年間のご更新をしていただけたらと考えておりますので、それにつきましては、実務的にご照会をさせていただきたいと思っておりますので、ご了解のほどよろしくお願いたします。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

あと、アナウンスをさせていただきたいのですが。

委員の皆様からいろいろご意見いただいていたツイッターなんですけれども、最近、運用を始めまして、これを機会に相互にフォローし合って、お互いの情

報を発信して、収集して、点と点をつないで、より多くの人に発信する媒体の1つとして活用していきたいと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

続きまして、聖火リレーにつきまして。

皆さんにお配りしているオリンピック聖火リレーに係る今後の予定という紙を見ていただいて。ご存じかとも思うんですけども、昨年12月に千葉県内の聖火リレールート案というのを県の委員会を立ち上げて組織委員会に提出したところでございます。

このルート案につきましては、県は公表しておりません。

今年2019年7月ごろに公表され、そのときに松戸を通るかどうかもわかるということでございます。

冬ごろにランナーが決定して、3月26日から福島県から聖火リレーがスタートして、千葉県に入ってくるのは、神奈川県から入ってきて、7月2日から4日の3日間、千葉県を走るという予定で、茨城県に流れるというようなルートになっております。

公表できる時期になりましたら、皆さんのご協力がどうしても必要になってくると思いますので、そのときは改めてお願いしたいと思っておりますので、ご承知おきください。

○長江会長

ありがとうございます。

○事務局

最後に1点ですが、「いだてん」という大河ドラマが1月から始まりました。主演の一人、東京オリンピックを招致した役というのが松戸市出身の阿部サダヲさんがやられる田畑政治さんという朝日新聞の新聞記者の役でございます。

また、嘉納治五郎先生のお墓が都立八柱霊園にございまして、墓所につきましては、講道館の方々が今も柔道の大会の前には来ているそうです

以上でございます。

○長江会長

皆さんご存じの、昭和11年にオリンピック誘致で、ベルリン大会の後に幻の東京オリンピックというのがございまして、それを誘致した者が嘉納治五郎先生で、昭和13年のIOCの会議のとき、帰りの氷川丸の船上でお亡くなりになって、氷詰めのご遺体が横浜についたときには皆さんで出迎えしまして、その後、昭和15年、1940年にオリンピックを東京で開催するという、駒沢オリンピック公園というのはそのときにつくられたものでございますけれども、戦争で返上しなければいけないオリンピックだったんです。それが昭和39年の東京オリンピックにつながっていくという流れで、八柱霊園は昭和10年6月開園

でございます、その中に東京オリンピックから採用されました柔道の聖地でもあるという嘉納治五郎創始者のお墓があるということで、柔道関係の方はよくお参りになっておられます。

○岡本委員

私も若いときにずっと行っていました。講道館に道友会という古い柔道家同士の会がありまして、その総会を八柱霊園の前で開催して、我々は年に1回あそこに行くんです。

○長江会長

それでは、皆様方のご予定をお伺いして、次回の会議に続けたいと思います。大変貴重なご意見をいただきまして、第3次行動計画の中にも皆様の意見を反映した形で出していただくようよろしくお願いしまして、閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。